ビデオ視聴による同性愛に対する態度変容

田中宏明

(大阪市立大学大学院文学研究科)

キーワード: 同性愛 偏見 教育番組

Effects of Video on Attitudes toward Homosexuals

Hiroaki TANAKA

(Graduate School of Literature and Human Science, Osaka City University)

Key words: homosexuality, prejudice, educational program

目 的

石丸 (2008) は同性愛者を対象とした調査を行い, 同性愛者は日常生活で同性愛を否定されるなどのネガティブな体験をしていることを明らかにした。同性愛者に対する偏見や差別はどのようにすれば低減することができるのだろうか。Allport (1954) は, 相手に対する知識の欠如が偏見形成に関わっており, 偏見の解消には接触が重要であると考え, 異なる集団間の成員が接触することにより両者の関係が改善されるという接触仮説を提案した。上瀬, 松井 (1996) は, 血液型ステレオタイプを否定する内容の講義を行ったところ, 血液型ステレオタイプに対する否定的な態度変容がみられたと報告している。また, 小平, 伊藤, 松上 (2007) では, 大学生に統合失調症についてのビデオを視聴させることで, 統合失調症に対して肯定的な態度変容が認められている。これらの研究は, 接触や講義, ビデオ視聴などとおして外集団についての正確な知識を得ることが差別や偏見の低減につながることを示唆している。本研究では, 同性愛をとりあげた教育番組を視聴することで, 偏見が低減され同性愛者に対する態度が肯定的に変容すると予想し検討した。

方 法

実験参加者 大学生 38 名 (男性 16 名, 女性 22 名)。平均年齢は 20.87 歳 ($SD = 1.42$) であった。

尺度 事前に調査を行い, Herek (1988) と Morrison, Kenny & Harrington (2006) の同性愛に対する態度尺度の項目を邦訳したものをもとに, 日本語版の同性愛に対する態度尺度を構成した。因子分析を行い, 男性同性愛, 女性同性愛のどちらについても 1 因子構造と判断し, 尺度構成を行った。構成した尺度を平均点, 分散が等しくなるように折半し, 2 つの尺度を構成した。各尺度の項目数と信頼性は, 男性同性愛に対する態度尺度 a 尺度: 8 項目, $\alpha = .88$, b 尺度: 8 項目, $\alpha = .85$, 女性同性愛に対する態度尺度 a 尺度: 9 項目, $\alpha = .85$, b 尺度: 9 項目, $\alpha = .86$ であった。

手続き 実験実施の 1 週間前にプレテストを行い, 参加者は同性愛に対する態度尺度の一方に回答した。本実験では, 実験室で 4 名程度の小集団で約 20 分間, ビデオを視聴した。実験群は NHK 「ETV ワイド セクシャルマイノリティ」の中から, セクシャルマイノリティについて解説するシーンと男性同性愛者の学生を取材したシーンを視聴し, 統制群は NHK 「きらっと生きる」から, シャルコ・マリー・トゥース病について解説するシーンと患者の生活を取材したシーンを視聴した。その後, 印象に残った点と感想を自由記述し, プレテストで回答しなかった方の態度尺度に回答した。最後にデブリューニングを行い, 実験を終了した。

結 果

男性同性愛に対する態度 実験群のほうが統制群よりもプレテストの得点が有意に高かった ($t(36) = 2.28, p < .05$) ため, プレテストの得点からポストテストの得点を差し引いて差得

点を求めた。差得点が正である場合は態度が肯定的に変容したことを示し, 負である場合は否定的に変容したことを示す。表 1 は実験群と統制群の差得点の平均を示したものである。F 検定を行ったところ, 実験群と統制群の分散の差が有意であった ($F(18,18) = 2.75, p < .05$)。そこで, 分散が等しくないと仮定した t 検定を行ったところ, 有意傾向であったが群間に差がみられた ($t(30) = 2.02, .05 < p < .10$)。ビデオ視聴により男性同性愛に対する態度が変容する可能性が伺えた。

女性同性愛に対する態度 男性同性愛に対する態度変容についての分析と同様に, プレテストとポストテストの差得点を求めた。F 検定を行ったところ, 実験群と統制群の分散の差は有意でなかった ($F(18,18) = 1.04, n.s.$)。t 検定を行ったところ, 平均の差は有意であり ($t(36) = 2.47, p < .05$), 実験群において肯定的な態度変容が起こったことが明らかになった。教育番組を視聴することで, 同性愛者に対する態度は肯定的に変容するという仮説が支持された。

表1. 同性愛に対する態度変容

	男性同性愛		女性同性愛	
	実験群	統制群	実験群	統制群
N	19	19	19	19
平均	2.00	-0.47	2.16	0.16
SD	4.57	2.76	2.52	2.48

考 察

この研究の問題点としては, プレテストの得点をもとに参加者を実験群と統制群に均等に振り分けることができなかったこと, 参加者の人数がやや少なかったことがあげられる。そのために, 男性同性愛に対する態度変容が傾向差にとどまってしまう可能性がある。また, 男性同性愛に対する態度においては, 統制群に比べ実験群の分散が大きく, 態度変容に個人差のあることが示された。なぜ, このような個人差が生じるのかについて調べる必要がある。さらに, 本研究ではビデオのどの内容が態度変容を促したのかを明らかにできない。これらの点について今後, 検討していきたい。

引用文献

- Allport, G.W. 1954/1979 The nature of prejudice. New York: Doubleday Anchor Books.
- Herek, G.M., 1988, Heterosexuals' attitudes toward lesbians and gay men. *The Journal of Sex Research*, 25(4), 451-477.
- 石丸 径一郎 (2008) 同性愛者における他者からの拒絶と受容, ミネルヴァ書房
- 上瀬由美子・松井豊 (1996) 血液型ステレオタイプの変容の形. *社会心理学研究*, 11, 170-179.
- 小平 朋江・伊藤 武彦・松上 伸丈 (2007) ビデオ視聴による統合失調症の人への偏見低減のための教育の効果. *日本教育心理学会総会発表論文集*, 49, 353.
- Morrison, T.G., Kenny, P., & Harrington, A., 2005, Modern prejudice toward gay men and lesbian women. *Genetic, Social, and General Psychology Monograph*, 131(3), 219-250.